

# ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

特集……P2

## ストップ・ザ・無縁社会 絆つなげる・明日へつながる ～「全県キャンペーン」の展開～

みんなでつくるひょうごの福祉……P6

“みんなでつくる”連携・協働のたよれるネットワーク  
伊丹市福祉権利擁護センター

あなたのまちの社協ナビ……P7

三木市社協

地域の困りごとをみんなで考える!  
力合わせのプラネットホームづくり

地域を駆ける!ワーカー物語……P8

住民と共に気づき、“つながり”を生かしたい  
養父市社会福祉協議会 吉田明博さん

兵庫県からつなぐ被災地支援……P9

県社協ニュース……P10

みんなの広場……P11

6月は  
男女雇用機会  
均等月間だよ

6  
No.736





# ストップ・ザ・無縁社会 絆つなげる・明日へつながる ～「全県キャンペーン」の展開～

「果たして“無縁社会”のままでよいのだろうか?」という問いが、いま私たちに投げかけられている。前号で取り上げた“無縁社会”の状況を脱するためには、私たち一人ひとりがこの問題に向き合い、新たな支え合いのあり方を模索していく必要がある。

本会ではこのたび、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを提唱し、県内の多くの方々と協働して進めていくこととした。今月号の特集は、多くの県民の参加を願うため、このキャンペーンの概要を紹介する。



## 「無縁社会」を問い直す 「どこからはじめよう」

本誌5月号では、「無縁社会」の象徴である孤独死の県内の事例を取り上げた。つながりが薄く、社会から孤立した中で起きる悲劇は、決して遠い世界の出来事ではなく、私たちの身近なところで起きている問題である。

無縁社会は、近年の社会の成熟化に伴う価値観の多様化、少子高齢化、単身世帯の増加、家族を含めた他者とのコミュニケーションの希薄化、雇用形態の変化など、さまざまな要因が背景として重なり合っている。それにより、社会から孤立し、支援の手が届かない人々を生み出す結果となっている。

今や、社会的な孤立は若者から高齢者まで広がり、これまで家族や地域、職域等での支え合いで対応してきたことが、生活問題として現れるようになり、さらに複雑化・深刻化の度合いを増しつつある。

果たして、このような社会でいいのだろうか。民生委員・児童委員

など、日々地域福祉活動を実践している方々にとって、その思いは強いのではないだろうか。

私たちは、阪神・淡路大震災の時、人は一人で生きていけないことをあらためて知り、人や社会とのつながりや、コミュニティの大切さを認識することになった。これにより、従来から取り組んできた地域の支え合い活動が注目されることとなった。

しかし、現実には、社会の無縁化は急速に進行し、私たちの身近なところで孤独死などの悲劇が起きる



阪神・淡路大震災で確認された支え合いの大切さ

いのある社会づくりに向け、県民とともにその方策を探っていくことを考えている。

## 全県キャンペーンの概要

### 全県キャンペーン推進協議会の設置

このキャンペーンは、日頃、地域福祉活動を実践している方々だけでなく、社会全体で無縁社会の問題を取り組む必要がある、という思いが出发点にある。その思いを大切に、福祉関係者のみならず、経済産業、労働、文化など幅広い分野を結集する「民」発のキャンペーンとして展開するものだ。

そのために、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会(以下、「推進協議会」)を立ち上げ、各分野の県内の団体、企業に推進団体としてキャンペーンの参画を呼び掛けていることとした。キャンペーンに参加する輪を、県域のみならず、市町村、私たちの身近な地域で広がっていく予定だ。

なお、現在、推進協議会の立ち上

げに先立ち、県内の福祉・医療・保健・経済・産業・労働等の各界の代表者からなるキャンペーン発起人会を6月に立ち上げる準備を進めているところである。

### キャンペーンの推進期間

無縁社会の問題は一朝一夕で解決できるものではない。このキャンペーンも、今年度だけで終わるのではなく、息の長い取り組みをしていく必要がある。

当面は、県社協2015年計画の推進期間である平成28年3月までの4年間(平成24年度から平成27年度まで)をキャンペーンの推進期間としていく。今後はキャンペーンの進捗状況を踏まえ、参画いただいた団体や県民からの声に基づき、キャンペーンを「進化」「発展」させていきたい。

### キャンペーンロゴマーク

「ストップ・ザ・無縁社会」を実現するためには、まずは多くの県民に無縁社会の問題への関心を寄せていただくことが大切である。そのため、このキャンペーンでは、ロゴマークを

作成し、無縁社会への関心を高めていく予定である。今後、各推進団体の広報誌、ホームページなどにロゴマークの掲載を依頼し、広く住民の目に触れるようにしていきたい。なお、県社協としては、ロゴマークを活用したキャンペーングッズも作成していく予定である。



### 意見を交わす場として

#### 「ホームページ」と「フォーラム」

無縁社会といっても、それに対する考え方は人それぞれだろう。しかし、多様な意見に基づく議論があってこそ、無縁社会を脱する知恵と力が生まれてくるのではないだろうか。このキャンペーンでは、無縁社会の現状を問いかけるとともに、さまざまな意見を交わす場づくりを行っていく。

東日本大震災を経験した今、再び「絆」や「支え合い」の大切さが強調され、多くの人の関心と呼んでいる。そのような時だからこそ、今、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを展開し、これからの支え合



「無縁社会」をどう見るか～当事者サイドからのメッセージ～

「焦げてますよ」の声かけができる地域を

「無縁社会」と呼ばれる社会状況をどう見るか。

現代は冠婚葬祭なども業者に頼むことが増え、地域の中でお互いに声をかけあうことが少なくなっている。認知症の人のことも、頭では理解していても、一度関わることによって頼られてしまうと困るという心理が働き、「あの人が最近おかしいのでは」と近所の人を感じながらも、結局声をかけないままに終わってしまう。「無縁社会」の流れを戻すには時間がかかるだろう。

「無縁社会」を乗り越えるためには何が必要か。

「24時間の見守り」と言われるが、現実には不可能だし、その必要もない。例えば、認知症の人が、鍋の火を消し忘れるという不始末を起こすと、近所の人には「火事を起こすのでは」と心配する。たった1回火を消しただけで、「認知症」という固定観念から、その人が調理することのすべてを否定されてしまうのである。近所の人や、朝・昼・晩の食事時に注意を寄せてあげるだけで十分ではないか。それさえできなければ、焦げた匂いが漂ってきたら、声をかけてあげればそれで済むはずだ。

まずは近所で顔を合わせたら挨拶をすることで、顔の見える関係ができ、地域も変わってくるはず。SOSを出しやすい雰囲気を作ることが大切である。「バラ公園ネットワーク」(本紙1月号参照)のような取り組みの成果が広く共有され、地域の仲間づくりの輪が広がっていくことを望みたい。



認知症の人と家族の会兵庫県支部 代表 酒井 邦夫さん

温かい思いやりのある社会づくりが大切

「無縁社会」と呼ばれる社会状況をどう見るか。

最近、相次いで痛ましい孤独死の事件が報道されている。本人たちが隣人や仲間につながり、衰弱していることを周囲がキャッチできていれば助かったかもしれないが、そういうことは一切なかったのだろうか。

昔は、地域の中にお節介で世話焼きな人が必ずいて、お互いに損得なしで支え合っていたものだ。競争社会の中で、人の温かみを知らない人が増えているのではないか。自分から「助けて」と言わなければ支援の手が届かない社会は、やはりおかしい。

「無縁社会」を乗り越えるためには何が必要か。

宅配業者などが住人の異変に気がつくということもあるようだが、まずは身近な地域で隣人や仲間がアンテナを張り、お互いに見守り合うということが大切だ。サービスがあればいいというものでもない。私の住む地域では、知的障害を持つ子の親が80歳を超えているという家庭が増えている。子がケアホームに入ると家に一人になってしまうことから、親同士で「いまどうしてる?」と電話をかけあうことにしている。本人が「助けて」と言ってくれば、周りから声をかけ合おう、という発信をみんなでしていくべきだ。もっと人に頼ることを負担に思わない社会になればと思う。行政や社協には、そのようにお互いを思いやる心を育てる社会づくりに向けた発信を、ぜひお願いしたい。



兵庫県手をつなぐ育成会 理事長 小原 冷子さん

セルフヘルプグループから見る「無縁社会」

2010年に放映されたNHKの「無縁社会」が今もなお反響を呼んでいる。自死、児童虐待、孤独死などといった、近年多発する多様な問題に共通するものは何かを探っていけば、地縁、血縁、社縁が希薄になっている社会の特性が浮かび上がってきた。番組ではそれを「無縁社会」と呼んだ。墓参すれば必ず眼にする「無縁仏」、老いた母親のささやかな人生を歌ったさだまさし作の「無縁坂」。いずれにしても「無縁」とつづけば、その寂しさや哀しみが思い起こされ圧倒される。

昨年、数々あるセルフヘルプグループ(以下、「SHG」)の調査を行った。SHGが課題とする点については置いておこうが、全てのSHGに共通した望みは「つながりたい」と「分かっしてほしい」であった。SHGでは、一人では解決や軽減の困難

な生活課題を抱える人々がつながりあって自分たちで課題に積極的に主体的に向き合い、その解消や軽減を図ろうとしている。元々、SHGは生活課題を抱えて利用できる社会サービスもなく孤立した人々で構成されている。つまり、「無縁状態」に陥った人々である。SHGはそうした人々がつながりあって力をつけていく場であり、さらに仲間同士だけでなく、地域社会に向かって自分たちの生きづらさを理解してほしい、と発信して理解を求めてきた。SHGに関わる人々は、「無縁社会」とことさらにマスコミで取り上げられることに違和感を覚えているに違いない。SHGが何十年前から苦悩し、それに向き合ってきたことなのだから。

ひょうごセルフヘルプ支援センター 代表 中田 智恵海さん

今後の取り組み

まずは「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの発起人会を開催し、キャンペーン推進協議会を立ち上げていく予定だ。その後、県内の各団体・企業等に働きかけ、賛同の輪が広がった段階で、夏にキックオフとなる会議を開くこととする。

その一つとして、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの専用ホームページを立ち上げ(7月末開設予定)、県民からの多様な意見を募集・掲載するコーナーを設置する。本誌でも、県内の支え合い活動の取り組みを紹介していく予定だ。さらに、多様な場で「無縁社会」をテーマとしたフォーラムを企画していく予定である。

なお、推進協議会に参画する団体に対しても、住民の身近なところで無縁社会についての意見を交わすフォーラムや住民座談会等を開催いただくよう働きかけていく。



県社協としては、キャンペーンの関連事業として、第51回社会福祉夏季大学(8月23日)、第6回全国校区・小地域福祉活動サミット in K O B E・ひょうご(平成25年1月12日、神戸市社協等と共催)を開催する。

8月に開催する社会福祉夏季大学では「絆つなげる・明日へつながる」(ストップ・ザ・無縁社会)をテーマに、北海道大学教授の宮本太郎氏を招き、無縁社会を乗り越え、これからの福祉社会のあり方を参加者とともに考える。



「無縁社会」をテーマに開催した「第50回社会福祉夏季大学」

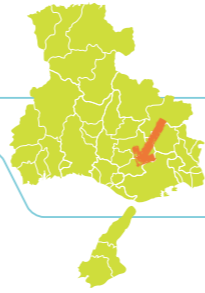
また、来年1月に開催する全国校区・小地域福祉活動サミットでは、地域活動の実践者、関心のある人達が全国から一堂に集い、これからの「縁」をつむぐ地域活動実践のあり方を考える場として開催する。現在、サミット開催に向け、関係者による実行委員会を立ち上げ、現場からのポトムアップ方式で企画を練っているところだ(11ページ参照)。

新たな支え合いの社会づくりをめざして

人は一人では生きられない。人は何らかの社会関係の中で、文化的に生きていくものである。無縁社会と呼ばれる状況の中、私たちは互いにその存在を認め合い、ともにつながり合う関係を再構築していかなければならない。そして、今日の時代に合った支え合いのある社会をつくるべく必要があるだろう。次ページに寄せられた当事者サイドからのメッセージは、私たちにそのような社会について考える必要性を鋭く迫るものである。この「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンが、県民の知恵と力を合わせていく契機となることを願うものである。

次号からは、県内各地で取り組まれている支え合い活動を紹介しながら、「無縁社会」を脱する方策を読者の方とともに考えていきたい。また、キャンペーンの最新の取り組み状況を随時掲載していく。



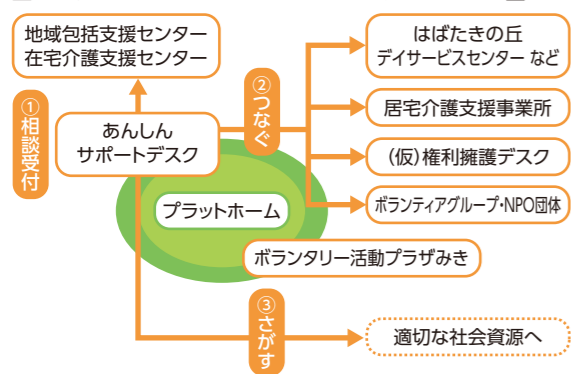


三木市社協がこの度策定した「第2次地域福祉活動計画(平成24~28年度)」は、市民とともに力を合わせる取り組みを随所に盛り込んでいます。なかでも象徴的なのが、相談から問題解決までを一体的につなぐプラットフォームづくりだ。

**ワンストップの相談窓口がスタート**

市社協では、昨年度の試行を踏まえ、今年度より「あんしんサポートデスク」が本格始動した。各種関係機関の相談窓口が増える中で、「どこに相談すればいいのか分かりづらい」「たらい回しになるのでは」「など、相談につながるにくい市民の困りごとを高齢・障害等の分野にかかわらず受け止めるワンストップの窓口だ。相談を待つのではなく積極的に市民が集う場に出向き、困りごとをキャッチする機能もある。内容に応じて、専門窓口や各種サ-

■プラットフォーム・あんしんサポートデスクのイメージ図



ビス、ボランティア活動へとつなぐ。ケアマネジャーなど専門職からの相談も多いという。現在、市内3圏域のうち南部圏域で展開しており、今後は全市域へ広げる予定だ。

**活動エリアに着目 地域安心生活に視点を向ける**

南部圏域の「自由が丘」では、3年前から「在宅生活支援プラットフォーム」が取り組まれている。市民やボランティア団体、専門職が地域の問題をともに考え対応する場

として、公民館に設置された。「このお家のおばあちゃん、気になるなあ」。民生委員児童委員やクリーンキャンペーン、パトロールなどのボランティアグループ、NPO法人にも呼びかけ、集まったのは10数グループ。話し合いが重ねられ、「ゴミ拾いの近くのお宅やから、活動の後に見に行くことならできわ」の声に、「じゃあ私たちは…」と各々が出来ることを出し合った。活動分野が違う者同士が、少し足を延ばしてできる、声掛け運動や見守り活動は、今も継続中だ。

今後はこのプラットフォームに「あんしんサポートデスク」の担当者が入ること、潜在ニーズが拾い上げられ、さらなる支援が広がることが期待されている。「災害時の対応も含め、市民・ボランティアグループ・専門職がそれぞれの持ち味を発

超高齢化社会が現実のものとなった今日、いかにして地域社会を心の通い合う潤いのあるものにしていくかは、今に生きる者に与えられた大きな課題です。三木市社協では地域社会の現状から課題を洗い出し、第2次地域福祉活動計画を策定しました。

計画を実のあるものにするために、住民に周知していくことが重要です。そのためにも、あらゆる機会にあらゆる広報媒体を活用し、みんなで体験しながら地域の課題解決に取り組める風土づくりに努める三木市社協でありたいと考えます。



三木市社会福祉協議会 地域福祉活動計画策定委員会委員長 土居 正宏



市民と専門職が地域の課題をともに考える

# 地域の困りごとをみんなできえるーカ合わせのプラットフォームづくりー

伊丹市内の8つの社会福祉法人が連携して平成23年4月に開設。認知症や知的障害のある人などが、地域で安心して暮らせるように支援をしているよ。これまで福祉専門職だけでは解決が難しかった虐待や成年後見制度の利用などの問題も、弁護士や司法書士、医師などと連携することで解決に向かってるんだ。



## みんなでつくるひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

### 地域生活の危機を専門的にサポート

夫が認知症、妻が精神的に不安定。夫の介護・世話の放棄が疑われる高齢夫婦をどのようにサポートできるのか…

これは、実際に「伊丹市福祉権利擁護センター」に相談があった事例である。認知症などで判断する力が低下すると、必要なサービスを自分で選んで契約することが難しくなる。この事例では、夫が介護サービスを利用できるよう弁護士が成年後見人に就任。また、妻は医師の助言を受けて医療機関を受診し、夫婦ともに安定した生活を取り戻すことができた。

この事例のように認知症や知的障害、精神障害でサービス利用の契約が難しい人のほか、虐待や悪徳商法被害など権利侵害を受ける人も後を絶たない。

### 「法律×医療×福祉」のネットワークが強み

そこで、福祉だけでなく法律、医療の専門職がネットワークを組み、

## “みんなでつくる”連携・協働のたよれるネットワーク 伊丹市福祉権利擁護センター



イメージキャラクター「華くん」



市民も関わりみんなできえるために「後見サポーター養成講座」を実施

当事者の権利を守ることを目的につくられたのが、「伊丹市福祉権利擁護センター」(以下、「センター」)である。センターの主な役割は、①高齢者や障害者の相談機関をバックアップすること、②判断能力の不十分な人の財産と生活を守る成年後見制度の基盤をつくることである。

相談は、センターを開所した1年間で270件。相談機関の専門職や悩みを抱える本人・家族にほぼ毎日対応している。内容は、高齢者や障害者の虐待関係、成年後見制度の利用、日常的な金銭・財産管理などが多く、虐待関係は2割を超える。問題が複雑な場合は、弁護士、司法書士、医師、福祉専門職などで会議を開き、チームで今後の見通しと支援方針を共有、対応を図っている。

### みんなでつくるたよれるネットワーク

認知症や障害のある人のその人らしい生活は、専門職だけで支えられない。センターは、市民向けに当事者の見守りや話し相手などを担う後見サポーターの養成や啓発活動に取り組む、地域のつながりの中の支え合いの気運を高めている。今後は、市民後見人を養成する予定だ。

伊丹市では、センターが権利擁護の中核的な役割を担いながら、専門職も市民もみんなが力を合わせ、当事者の暮らしを支えるネットワークとしている。

### 取材を終えて

公益性の高い社会福祉法人が協働してセンターを設置し、市民の権利と生活を守る取り組みは新しい権利擁護のかたちです。市民と法律、医療、福祉の専門職が連携しながら、地域のつながりの中で力を発揮し、権利擁護の取り組みを重層的に進めている姿が印象的でした。今後の展開に注目です。

伊丹市福祉権利擁護センター (事務局:伊丹市社会福祉協議会) ☎072-744-5130

## 災害支援ボランティアネットワーク 丹

報道を見て涙するなら被災地で汗をかこう



被災地での交流から復旧・復興へ

昨年、丹波市社協の呼びかけにより、気仙沼市へ出向いた仲間が災害支援に対する熱い思いの者が集まり、地震、台風、豪雨などの災害発生時に活動ができる体制と、

いざという時に生きる「顔見知り」の輪を広げ、被災地をいち早く復旧・復興に向けて歩み始めることを支援していく「災害支援ボランティアネットワーク 丹(まごころ)」を設立しました。

会員は、時間の許す時に気軽に行動ができるグループ組織として募集を行いました。今年1月には和歌山県那智勝浦町に出向き、河川の流木除去や汚泥の処理を行うとともに、そこで知り得た現地のボランティアグループとの深いつながりも築けました。

さらに4月には、現地のグループとの調整の中で、仮設住宅で避難されている16世帯の方々にもお出合いし、丹波産の「たけのこごはん」や「野菜サラダ」「お味噌汁」などを調理して提供し、被災状況や今後の生活に係る思いなどについて交流を深め共感することができました。

地域づくりの原点である「自助・共助・公助」の基本理念から、共助の役割を重要視して、一日も早い被災地の復旧・復興に向けて活動を行います。

(災害支援ボランティアネットワーク 丹 打田 諭志)

## NPO法人コミュニティリンク

共に働くことで支援につなげたい

コミュニティリンクでは、ICT(Information and Communication Technology)を活用した情報発信や、まちづくりに役立つ情報基盤整備に取り組んでいます。最近では、インターネットを活用した通信での動画が気軽に楽しめるようになったため、映像の作成・配信や、ライブでのインターネット中継などのご支援が増えてきております。東日本大震災でもICTを活用した多くの先進的事例が生まれました。地域の情報発信をICTが担える基盤はすでにそろっており、あとは、活用者が各地域で育っていくことが重要だと考えております。

そんな中、我々も被災地の方々の力になれるようなことが無いかと考え、宮城県気仙沼市に幾度か訪問させていただきました。1年以上が経過した今も、まだまだ課題が山積しており、情報発信力の不足を感じます。

そこで、支援の取り組みとして気仙沼市の被災者の方を雇用し、コミュニティリンクの情報発信の仕事と共に体験していただくことで、ノウハウやNPO活動を学習して帰ってもらいます。多くの時間を共有し、信頼関係を築き、息の長い支援を続けたいと思います。

(NPO法人コミュニティリンク 榎原 貴倫)

## 兵庫県からつなぐ被災地支援

兵庫県内の社協、社会福祉施設、NPO、職能団体等の救援活動を紹介し



## 西宮市社協

西宮市民の思い。届け被災地へ!



仮設住宅生活支援員の方と交流

昨年8月、西宮市の住民の方が作られた「らくらく椅子(牛乳パック製)」100個を宮城県南三陸町仮設住宅へお届けしました。その後、仮設住宅入居者の方から「ぜひ自分たちで作ってみたい」という声が届き、3月末に3名のボランティアの方に宮城県南三陸町の仮設住宅等を訪問していただき、仮設住宅に入居されている方や支援員の方と一緒にらくらく椅子を作成しました。みなさんとても和やかに作業をされ、らくらく椅子が完成すると「素敵な物ができて嬉しい」と喜ばれていました。

西宮市社協では、昨年度立ち上げた「みんなでみんなをすまいるプロジェクト」を中心に、今年度も復興支援活動を継続していきます。西宮市民の思いを被災地へ届け、少しでも被災地の復興に役立てればと願っています。

(西宮市社会福祉協議会 小藪 真彦)

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

地域を駆ける! ワーカー物語

住民と共に気づき、つながり、を生かしたい

あなたの原点は?

社協に入局してすぐに感じたことは、地域福祉活動、相談業務、当事者支援、老人クラブなどの団体運営など、まるで「福祉の百貨店」。活動の幅の広さに驚きとやりがいを感じました。反面、「社協は何をしているの?」との住民の声に、認知度の低さを痛感。そんな葛藤とやりがいと原点となり、今はどっぴりはまっています。

印象に残るエピソードは?

各地区の福祉連絡会(区長、民生委員・児童委員、民生・児童協力委員、福祉委員等で構成)と一緒に、市内すべての行政区で「福祉防災マップ」づくりに取り組みしました。これまでも、民児協や行政、社協でマップづくりは進められていましたが、「みんなが共通で使えるマップが必要」という住



福祉防災マップづくりが要援護者の支援を考えるきっかけに

民の声をもとに取り組んだものです。このマップづくりで、区内の危険箇所、避難所、支援が必要な人等を確認することで、いざという時の備えと、普段から見守り、助け合いの意識が高まります。「ひとり暮らしや空き家が増えてきたなあ」「普段から気にかけてかなあかん」など、住民が自分たちの地域や人について考えるきっかけとなりました。また、「こまめに要援護者の情報を把握しなければ」という住民の声から定期的な点検活動につながったり、地域

の福祉力が防災力につながることをあらためて実感しました。

力を入れたい活動は?

4年前、地域包括支援センターと社協で健康体操「やぶからぼうたいそう」を作りました。当時、理学療法士の友達と二人で作詞・作曲をすることにになりCDを作成しました。棒を持ち曲に合わせて体をひねったり伸ばしたりする体操は良いストレッチになり、地域のサロン、介護予防教室、保育所や異世代交流にも取り入れられ、子どもから高齢者までの幅広い層に広がっています。

大切にしていることは?

軽いフットワークで地域に出かけ、住民の相談には誠意を持って対応し、愛想の良さと熱い心で向き合っていることを大切にしています。

## 養父市社会福祉協議会 吉田 明博さん

Personal History

- 23歳 養父市社協に入局
- 30歳 社協合併協議会事務局に配属
- 31歳 合併により本部に異動 ふれあいのまちづくり事業担当
- 34歳 第1次地域福祉推進計画担当
- 35歳 やぶからぼうたいそう誕生
- 38歳 福祉防災マップづくりに携わる

取材を終えて

吉田さんのターニングポイントは、地域福祉推進計画づくりだったそうです。当事者や住民の声を丁寧に反映させ、みんなで作りあげたという計画に、「住民主体の福祉のまちづくり」へのこだわりが感じられます。



## 兵庫県経営協 第32回総会・記念講演会が開催される

5月14日、兵庫県社会福祉施設  
経営者協議会の第32回総会・記念  
講演会がANAクラウンプラザホ  
テル神戸において開催された。  
冒頭、婦木治会長からの挨拶の  
後、井戸敏三兵庫県知事が来賓を  
代表して社会福祉法人に対する期  
待と激励を含めた祝辞を述べられ  
た。続いて総会の後、2年間にわた  
り取り組まれた「社会福祉法人に  
おける人事管理研究会」の報告会  
を行い、研究会委員等3名が登壇  
して報告書の紹介や社会福祉法人  
の人事管理に関する今後の展望等  
の話がなされた。

記念講演会では、厚生労働省社  
会・援護局福祉基盤課長の定塚由  
美子氏より、「今、求められる社会  
福祉法人の役割とは〜変革時代の  
潮流を見据えて〜」と題して、「社  
会保障・税一体改革」のもと、社会  
福祉法人に求められる役割に関す  
る提言がなされた。経営計画の策  
定や人材マネジメントの確立、ガバ  
ナンスの強化といった経営基盤強  
化に努めるとともに、地域の多様



「社会福祉法人は地域のニーズに応えるべき」と語る定塚氏

な福祉ニーズに応える取り組みを  
積極的に行うよう強調された。と  
りわけ、制度から漏れた生活困窮  
者が多数存在している現状を踏ま  
え、現在国において生活保護制度  
の見直しも含めた「生活支援戦略」  
（仮称）の策定を検討しており、そ  
の役割の一翼を社会福祉法人にも  
期待しているという見解が示され  
た。公益的性格を有する社会福祉  
法人としての役割を改めて認識す  
る機会となった。

## 「第6回全国校区・小地域福祉活動サミット in KOBE・ひょうご」企画部会スタート!

5月7日、こうべ市民福祉交流  
センターにて、「全国校区・小地域  
福祉活動サミットin KOBE・ひよ  
うご」企画部会の第1回目が開催  
され、神戸市・兵庫県内12市町村  
協、NPO、行政等の職員が58人が  
参加した。

同サミットは、住民・活動者が主  
役の全国大会で今回が6回目の開  
催となる。人々のつながりが希薄に  
なる中、小学校区・自治会などの身  
近なエリアで住民がつながり、支え  
合いながら誰もが住みよい地域づ  
くりを進める小地域福祉活動への

関心はますます高まっている。昨年  
の京都府宇治市で開催されたサミッ  
トには2,000人を超える申し込  
みがあった。  
今年も3,500人を目標に参  
加を呼びかける。同サミット実行  
委員会企画部会では、全国各地で  
工夫を凝らして小地域福祉活動を  
進めている住民が交流し学びあ  
う場を企画し、「無縁社会」を乗り越  
える次の一歩につながる場づくり  
を目指す。  
サミット企画の状況は、専用ホー  
ムページとツイッターで発信中。



「今の地域の課題は何か」―熱気あふれる議論が展開された企画部会

### 第6回全国校区・小地域福祉活動サミット in KOBE・ひょうご

- 日時 平成25年1月12日(土)11:00~17:45
- メイン会場 神戸国際展示場コンベンションホール
- 分科会会場 神戸学院大学  
ポートアイランドキャンパス
- 対象者 校区や自治会など小地域を基盤に活動  
する地域福祉・ボランティア活動に興味のある方
- 参加費 3,500円
- 専用ホームページ  
<http://www.with-kobe.or.jp/summit/index.html>
- ツイッターユーザーID kouku\_summit\_6

### 寄付について(お礼)

ひょうごボランティア基金への寄付  
(平成23年10月〜平成24年3月)

ボランティア活動支援や友愛事業  
に大切に活用させていただきます。

#### ボランティア活動支援事業 へ寄付いただいた団体

(寄付月日順・敬称略)

- 株式会社森崎組
- 株式会社ユーテック
- 阪神道路開発株式会社
- 株式会社りそな銀行
- 株式会社近畿大阪銀行
- 兵庫県いなみ野学園 学生自治会
- 埼玉りそな銀行
- 株式会社安室組コーポレーション
- 兵庫県神戸県民局
- 北淡路産業株式会社
- 株式会社松田組
- 有限会社クレール
- 兵庫県文化賞受賞者懇話会
- 大阪ガス株式会社 小さな灯運動兵庫支部
- 才花建設株式会社
- 第一企業株式会社

#### 友愛事業へ寄付いただいた 団体・個人

(寄付月日順・敬称略)

- 株式会社ヤナセ 神戸四国営業本部
- 株式会社ユウター興産

#### ボランティア支援用品(ピブス) の寄付をいただいた団体

(寄付月日順・敬称略)

- 社団法人中華会館
- 兵庫県婦人手工芸協会
- 社団法人兵庫県柔道整復師会
- 小林正平
- 株式会社羽衣組
- 前川建設株式会社
- 株式会社八嶋組
- 株式会社太豊建設
- 有限会社イザナギ開発

東日本大震災ボランティア派遣時に  
大切に着用させていただいております。

#### サンテレビジョンが福祉施設 利用者をサーカスへ招待

サンテレビジョンでは、主催する  
「ハッピードリームサーカス神戸公演」  
の無料招待券を、県内の児童及び障  
害者児関係施設の協議会ならびに本  
会を介して福祉施設利用者へ贈呈し  
た。4月18日の贈呈式では、サンテ  
レビジョン横山代表取締役社長より目  
録が渡され、本会武田会長が感謝状  
の贈呈とともにお礼の言葉を述べた。

### みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

#### 「平成24年より社会福祉法人に移行」

### 社会福祉法人 兵庫県視覚障害者福祉協会

当協会は視覚障害者が福祉の増進を図ることを目的に昭和21年に結成した  
団体で、市郡(神戸市を除く)に支部があります。その後、財団法人を経て、平成  
24年1月には社会福祉法人になりました。

協会では、県の指定管理を受け「兵庫県点字図書館」の運営を行うとともに、  
点字出版施設において行政の広報誌や選挙関係、パンフレットなどの点字、録  
音物の制作を行っています。点字入り名刺の作成や点字案内板の校正、監修も  
行っていますのでご利用ください。

このほか、ガイドヘルパーや点訳奉仕員、朗読奉仕員養成講座の開催、視覚  
障害者ための日常用具等の斡旋や文化、スポーツ大会の開催などさまざまな  
活動を行っています。

また、協会では特別会員も募集しています。協会の目的にご賛同いただける  
方は、ぜひ下記までご連絡ください。

#### 連絡先

社会福祉法人兵庫県視覚障害者福祉協会  
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1兵庫県福祉センター内  
特別会員について ☎078-222-5556  
点字出版について ☎078-262-9201  
URL <http://www5.ocn.ne.jp/~kensiky/>



毎回熱戦が展開されるグランドソフトボール大会



芸能大会では会員相互の親睦が深まる

アピールしたい活動の  
情報をお寄せください。

お問い合わせ先  
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail [info@hyogo-wel.or.jp](mailto:info@hyogo-wel.or.jp)

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの問合せ先にご確認ください。

財団法人みずほ教育福祉財団

第9回配食用小型電気自動車寄贈事業

高齢者向けの配食サービスを行っているボランティアグループに対して、配食用小型電気自動車(通称みずほ号)の寄贈を行います。

**対象** ①原則週1回以上の配食活動を行っているボランティアグループ(行政などから配給食事業の委託を受けていないNPO等非営利団体・法人) ②社会福祉協議会の推薦を受けたグループ、または全国老人給食協会の会員で同協会の推薦を受けたグループ

**助成額** ①1グループ1台、10グループ程度

②1台上限110万円

**締切り** 平成24年6月29日(金)必着

☎みずほ教育福祉財団 TEL03-3596-4532

**URL** <http://www.mizuho-ewf.or.jp/>

2012年度ドナルド・マクドナルド・ハウス財団助成事業

難病児およびその家族を支援する福祉・医療分野におけるボランティアへ助成を行います。

**対象** 21歳までの子どもの健康や福祉を直接改善するプログラムであることや、多くの子どもたちを支援する見込みがあるプログラムであることなど、数種類の条件を満たしている非営利団体

**助成額** 総額250万円

**締切り** 平成24年6月30日(土)消印有効

☎☎公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン TEL03-6911-6068

**URL** <http://www.dmhcj.or.jp/>

平成23年度 ニッセイ財団 高齢社会助成「実質的研究助成」

「共に生きる地域コミュニティづくり」をテーマに助成を行います。

**対象テーマ** ①高齢社会における地域福祉、まちづくりに関する実践的研究 ②高齢者の自立・自己実現・社会参加などに関する実践的研究 ③認知症高齢者の予防からケアまでに関する実践的研究 ④東日本大震災被災地を研究対象フィールドとする上記①から③のいずれかに該当する実践的研究

**助成期間** 平成24年10月から最長2年

**助成額** 1件あたり200~250万円程度

**締切り** 平成24年6月15日(金)消印有効

☎日本生命財団高齢社会助成事務局 TEL06-6204-4013

**URL** <http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/>

募集

第41回 民間社会福祉施設職員 海外研修生の募集

外国の施設における実習を通じて専門的な知識・技能を習得し、社会福祉施設サービスの向上に資することを志向する民間社会福祉施設の職員に助成します。

**対象職種** ①介護職員 ②生活指導員 ③児童指導員 ④臨床心理士 ⑤理学療法士 ⑥作業療法士 ⑦看護師 ⑧保育士 ⑨その他特に必要と認める者

**対象** ①27歳以上45歳以下の者 ②経験年数5年以上の者 ③研修する具体的なテーマを有し、今後も福祉業務を続ける意志がある者 ④英語の専門用語の知識を有し、日常会話ができる者

**募集人数** 若干名

**研修期間** 平成25年4月初旬から8月初旬

**助成額** 一人当り滞在費1日1万円以内と旅費50万円以内の実費を助成

**締切り** 平成24年7月31日(火)

☎(公財)中央競馬馬主社会福祉財団 企画・管理部 TEL 03-5472-5581

**URL** <http://www.jra-umanushi-hukushi.or.jp/>

「受動喫煙の防止などに関する条例に係る表示マーク」デザイン募集

自分の意志に関わらず、他人のたばこの煙を吸わされる受動喫煙の防止に向けて、その趣旨を適切にイメージできる表示マークを募集します。

**賞** 優秀賞1点・賞状・賞金(10万円)  
**応募方法** 電子データまたはA4用紙で提出(1人何点でも応募可)。詳細はホームページなどでご確認ください。

**締切り** 平成24年6月25日(月)消印有効

**通知・表彰** 受賞者には、7月頃に直接本人に通知するとともに、ホームページ等で公表します。

☎☎兵庫県健康福祉部健康局健康増進課 受動喫煙対策室 TEL078-341-7711(内線3245)

**URL** <http://web.pref.hyogo.lg.jp/kf26/>

行事予定

6月 4日 福祉行政機関新任職員研修 ◆社会福祉研修所

5日 介護支援専門員研修・施設職員版(Aコース) ◆社会福祉研修所

7日 老人福祉施設新任職員研修(Bコース) ◆社会福祉研修所

12日 保育所新任保育士研修(Bコース) ◆社会福祉研修所

6月 14日 老人福祉施設新任職員研修(Cコース) ◆社会福祉研修所  
兵庫県地域包括・在宅介護支援センター 総会 ◆県民会館

15日 県内社協ボランティアコーディネーター連絡会議 ◆県福祉センター

18日~ 介護支援専門員専門研修課程I・更新研修A(前期) ◆県医師会館ほか

19日 介護支援専門員研修・施設職員版(Bコース) ◆社会福祉研修所

20日 県内社協事務局長会議 ◆県福祉センター  
社会福祉政策委員会 ◆兵庫県福祉センター

21日 社会福祉法人経営計画策定研修 ◆県福祉センター

22日 障害福祉施設系事業所新任職員研修(Bコース) ◆社会福祉研修所

県ホームヘルプ事業者協議会総会・管理者研修 ◆県福祉センター

28~29日 社会福祉援助基礎研修(Aコース) ◆社会福祉研修所

29日 県内社協地域組織担当者会議 ◆県福祉センター

7月 3日 福祉事業推進部会 ◆兵庫県福祉センター

地域福祉推進部会 ◆兵庫県福祉センター

市町社協活動推進協議会幹事会 ◆兵庫県福祉センター

3~4日 県民児連主任児童委員会全県研修会 ◆ポートピアホテル

5日 会計実務担当者研修(老人コース) ◆県中央労働センター

6日~ 介護支援専門員更新研修B・再研修 ◆県のじぎく会館ほか

8日 第1回福祉の就職総合フェア in Hyogo ◆神戸国際展示場3号館

18日 会計実務担当者研修(障害コース) ◆県私学会館

19~20日 相談面接技術研修(初級)Aコース ◆社会福祉研修所

23~24日 相談面接技術研修(中級)Aコース ◆関西学院大学

24日 県知的障害者施設協会創立50周年記念式典 ◆神戸メリケンパークオリエンタルホテル

ひょうご出会いサポートセンター

神戸出会いサポートセンター(緑結びサロン) TEL(078)381-6820

阪神南出会いサポートセンター TEL(06)6481-7370

阪神北出会いサポートセンター TEL(0797)26-7351

東播磨出会いサポートセンター TEL(078)920-9337

北播磨出会いサポートセンター TEL(0795)38-8022

中播磨出会いサポートセンター TEL(079)240-7005

西播磨出会いサポートセンター TEL(0791)58-1311

但馬出会いサポートセンター TEL(079)662-7701

丹波出会いサポートセンター TEL(0795)78-9130

淡路出会いサポートセンター TEL(0799)24-2717

サポートセンター本部 〒650-0011 神戸市中央区下山手通4-16-3

TEL(078)891-7415 FAX(078)891-7418

1対1のお見合いを紹介します!

お申し込みは最寄りのセンターまで

公益財団法人 兵庫県青少年本部

第2回 福祉の就職総合フェア in HYOGO



福祉現場への就職を希望する学生や求職者を対象に、社会福祉施設等と求職者の合同就職説明会を開催します。

**日時** 平成24年7月8日(日)13:00~17:00

**会場** 神戸国際展示場3号館

**対象** 学生・一般求職者

※事前申し込み不要

☎☎兵庫県社会福祉協議会 福祉人材センター

TEL078-271-3881

**URL** <http://www.hyogo-wel.or.jp>

参加費 無料